

燈と魂の

壮麗な夜

毎年6月第一金・土曜の夜、小矢部市津沢地区では五穀豊穡を願って夜高まつりが催される。

夜高は行燈、山車、釣ものから組み立てられ、大きいものは高さ7m・長さ12m余りのものもある。山車、釣ものは細い竹ひごを用いて、龍・御所車・花籠・牡丹・蝶・鶴など立体を形どり、和紙を貼る。その上に蠟引き・食紅など彩色して仕上げる。完成まで数ヶ月。毎晩おそくまで全て共同手作業で行われる。

祭りの当日、宵闇が迫ると、家々の軒先毎につるした行燈に灯がともされる。それを合図にまず豆しぼりの鉢巻に小若のはっぴを着た子供たちが武者絵の行燈を引き、次々と通り過ぎてゆく。その後、諸肌脱いだ若衆たちが夜高に太鼓の響きと掛け声とともに大行燈を練り担ぐ。

祭りの見せ場は、何といても向かい合った双方の夜高行燈が、裁許長の掛け声で激しくぶつかり合い、相手側の山車、釣ものを壊す「喧嘩夜高行燈引き廻し」である。まさに引き手である若衆たちの勇気・エネルギーのぶつかり合う瞬間であり、そこに居合わす見物客も一緒に、緊張と陶酔の世界へ引き込んでいく。

祭りは午後11時から午前0時頃が最高潮に達し、やがて静かな闇へと帰っていく。

富山県小矢部市

津沢 夜高あんどん

毎年6月第一金・土曜夜



小矢部市・小矢部市観光協会
津沢夜高行燈保存会・小矢部市商工会



燈火

闇の中を御神燈の列が練り歩く。
燈火と人のエネルギーと魂の陶醉。

激突

歓声

小矢部市 津沢

万治3年(1660)開祖阿曾三右衛門翁によって町立てがなされた津沢は、藩政時代から明治中期まで町の中を流れる小矢部川を中心に藩倉や舟着き場があり、広く砺波平野の生産米をはじめ生活物資の集散地として栄えてきました。

町内にはのどかな街並みや名称・旧跡が点在し、加賀百万石文化の流れを今にとどめています。



ヨイヤサ! **ヨイヤサ!**

若衆の掛け声と笛、

太鼓の囀りとともに

二台の行燈が近づいていく。

互いの行燈が一定の距離をとる。

時が来た。緊張が若衆に走る。

ヨイヤサ! **ヨイヤサ!**

裁許長の声と同時に二台の行燈が

互いをめがけて加速する。

前方の担ぎ手たちが

体をひるがえした瞬間、

行燈がにぶい音とともに

激しくぶつかり合う!

押せ! **押せ!** **縄を放すな!**

怒号とどよめきの中、

真剣な若衆の顔が

行燈の明かりに映し出され、

祭りは観衆も巻き込んで

陶醉の頂点に達する。

ヨイヤサ!
ヨイヤサ!

五穀豊穰